

を去ります。さういふおれ、米蔵と田んぼからどう生きる。引退(大地)と果樹園(柿の野中保育園(現野中こども園)と長い関わりがあります。この『親なると同人姉妹園』は時、剣道2段の私はチ

役の再就職です。保母のなり手のいない時代。家族総出で野中保育園(現野中こども園)と長い関わりがあります。この『親なると同人姉妹園』は時、剣道2段の私はチ

「チョウゲンボウの祈り」

林 孝行
(富士宮市大岩)

フォトギャラリー

この数カ月、新型コロナウイルス感染拡大に伴い各イベントの中止や自粛が続ぎ、重苦しい雰囲気包まれていた。そこで野鳥の写真撮影を趣味にしている一人として、今まで撮影した写真の中に、心温まりホッコリする写真がないか、パソコンに保存している未整



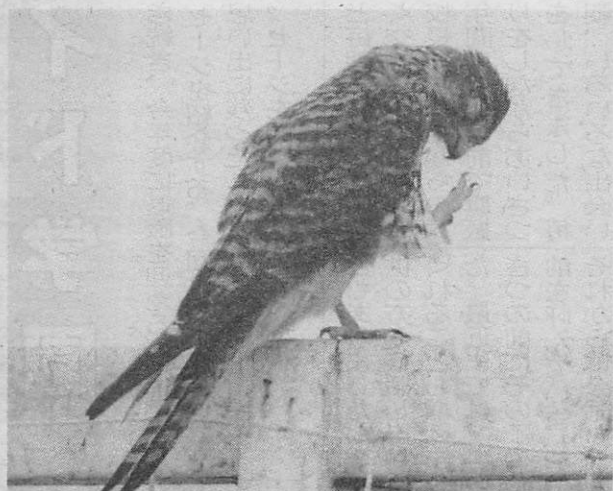
父と母、そして共に大地保育を育ててくれた保護者と職員、地域の方々、67年間大地保育の歴史を後世に語り伝え

河津校と思われるピンク色の桜が最近、あちらこちらで目に入るようになり、年々木も大きくなっていく川沿いの土手では並木になっていきます。

河津

でも回れるような道跡もできており、ゆったりとした気持ちで眺められました。また北松野に見

写真も含めて見直した。



その結果、今まで気る光景をよく見かけにも留めていなかった。「エッ」と思うような写真を見つけた。それが構えて追っていると、この写真。チョウゲがまたま近くのゴールで取ったものにも似たポストに飛んできて毛しぐさをした瞬間を切つくりを始めたのでり取ったものである。ある。その時の一枚で何となくほほ笑ましいのだ(自画自賛)。

チョウゲンボウから。富士川河川敷に出かすれば、「何度も来てけると、ハヤサの伸る暇なカメラマンが間ハトくらいの大さの猛禽(きん)類チして、色即是空」と念く山ヨウゲンボウ(長元坊)仏でも唱えているようが、ホバリングしてバダ。

章の言の。だ。

歩み振り返り (下)

ワイド学園

前回(先週)に引き続き、今年度に退職を迎える富士宮市立小・中学校長のメッセージを紹介する。今回は小学校長2人、中学校長4人に最も思い出に残ったエピソードと未来を担う子供たちへの願い・メッセージを聞いた。



芝富小

遠藤 彰 校長

— 思い出のエピソードは。

遠藤 38年間を振り返ってみると、子供たちとの楽しい思い出が数え切れないくらいあります。その中でも自分にとって一番大切に思えるのは、子供たち

と毎朝あいさつを楽しんでもありましたが、子供と交わせたことです。校長になってからの5年間、校門の前で旗振りしながらあいさつをしてきました。毎朝、いろいろな出会いがありました。足取りも軽く笑顔で登校してくる子、寝癖のついた髪で眠そうな顔で登校してくる子、中には虫かごを抱えて得意げに登校してくる子もいました。その特徴を見てみると、思わず話し掛けたくなりました。

私から声を掛けること

子供にはすごい力があります。けんかしても自分たちで自然に仲直りできます。大人は一度こじれるとなかなか相手が許せないのに、子供はしばらくするとケロッとじゃれ合ったりしています。大人が見逃している季節の移ろいにもよく気がつきます。松ぼっくりが落ちていたと、水たまりに氷が張っていたことなど、本

一番すごいのは、子供はただそこにいるだけで大人を元気にしてくれることです。そんな大好きでいてほしいと願っています。

遠藤 子供にはすごい力があります。けんかしても自分たちで自然に仲直りできます。大人は一度こじれるとなかなか相手が許せないのに、子供はしばらくするとケロッとじゃれ合ったりしています。大人が見逃している季節の移ろいにもよく気がつきます。松ぼっくりが落ちていたと、水たまりに氷が張っていたことなど、本

たい。皆さんの笑顔と元気、やさしきで37年間、教師を続けることができました。また、東日本大震災やコロナウイルス感染の状況を思うと「一人の命は地球より重い」と感じました。皆さん一人一人はかけがえのない大切な命を持っています。自分の命、周りの命を大切にすることを、生きてほしい。今日、生きていくことは奇跡かもしれない。毎日を後悔することなく、力いっぱい生きてほしい。

富士見小では国蝶オムラサキの飼育活動

を長い間、継続していきます。オムラサキが卵から幼虫、さなぎ、成虫と1年かけて成長